

幼馴染は

知らぬ間に...

2





NTR/BSS
モノクロ126ページ



幼馴染



完堕ち



幼馴染は

知らぬ間に...

2

前回のあらすじ



<主人公 ケータ>



<幼馴染 ユイ>



<幼馴染 タケシ>



好きな気持ちはあるのに幼馴染のユイに思いを伝えられないケータ。そんな彼らの前に現れるのはもう一人の幼馴染のタケシ。昔からスケベで有名な彼はユイにもちょくちょくセクハラをするが返り討ちにされていた。



タケシがユイに気があることはなんとなくわかっていた
ケータだが、タケシには絶対に無理だろうと高をくくっていた

だが、ある日からユイとタケシの間に、
怪しげで不穏な雰囲気は漂い始める。

- ・何故かデートすることになっている
- ・授業中に二人だけ抜け出す

そして、同時にケータのスマホにはタケシから、モザイク処理された
ユイによく似た女性のハメ撮り動画が送られてくる



動画を見ながらオナニーする日々を過ごしていたケータにある日、
様子がおかしいユイが相談をしてきた。

だがケータはそれを恥ずかしさから突っぱねてしまう。

そしてユイは失意のままタケシのもとへ...

そして、ケータのもとに送られてくるユイとタケシの
音だけハメ撮り動画。後悔してももう遅い。

自分の優柔不断を悔いながら自慰行為にふけるケータだった。



放課後

キンカン
カンクーン

あれから
ユイと話せてない

タケジは話しかけて
くるけど……

なあケータ

ん？

お前知ってるか？
部室のウワサ

部室？
なにそれ

ケータの友人
トモヤ

部室をやり部屋に
してるやつが
いるっぽいぜ

えっ

廃部になって使われてない
部室あるだろ？

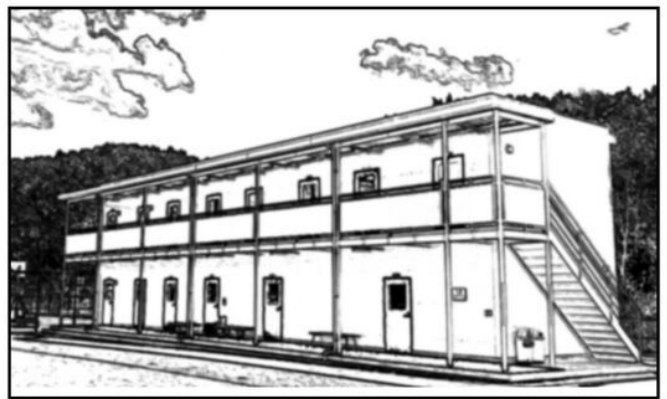
ああ ソフトボール部の

あそこをやり部屋にしてる
カップルがいるみたいだぜ

本当なのそれ？

この前俺自身が
喘ぎ声聞いたんだから
間違いないって
ビビってそんな時は逃げたけど

だからさ一緒に確かめに
いこうぜ！
俺一人だと心細いし



あつ
ほら見ろよケータ
ヤってるよ

嫌な予感的中した
暗がりでは顔はよく見えないが
俺にはわかる
あれはタケシとユイだ



ユイが馬鹿みたいに
足をおっぴろげて
タケシを受け入れている

俺は初めて生で目にした
二人の行為をみて
死にたいくらい嫉妬心と、
それに負けないくらい
興奮を覚えていた

すっげ
ほんとに入ってるよ

くっそ誰だかわかれば
明日からそいつ
みてシコれるのに

ケータは誰だか
わかるか？

…いや

だよなあ
くっそおうらやましい



うっわ
動き始めた

女のほう
喘いでんな
気持ちいいのかな

耳に響く生の声
その声は動画で聞いていたときよりも
はるかに艶やかで絶望的だった

女ってあんな
気持ちよさそうな
声出すんだな

トモヤの言葉を聞いて
ユイのよがる顔を
想像してしまう



ユイがあんな風に
股を開くなんて：

タケシに完全に
身体も心も許してる
ってことじゃないか

おっ腰の動きが
早くなった

イクのかな
女の方もエッロイ
声出してんぞケータ

くそっ
またあいつが
イクところを
見せつけられるのかよ

めっちゃ奥で
出してんなあ
気持ちよさそ〜♡

しかもホールド
してんじゃん
クッソ羨ま

ドクッ
ドクッ

この学園にあんな
ドスケベ女が
いるのかよ
気になるなあ

今まで見てきた
カメラ越し近く行為よりも
今見ている遠目の現実の方が

より一層
二人の心の「粘度」を
感じ取ってしまう

ああユイに
あの時告白してれば
無駄な思考が
頭をグルグル回る

野球部が帰ってくる前に
俺たちはその場を離れた
俺は、何をするでもなく
ただ家に帰ってオナニーした

タ
ケ
シ
サ
イ
ド







あゝ♡
最高の締めり
だっ♡

イってるっ♡
イってるからあ!



本気ピストン
ヤバすぎる♡
孕ませる気
なんだ♡

あゝ
出る出る出る

マンコ
締めろっ



射精す気だ...
私の中に...
駄目なのに

ダメだめ
中ダメ♡

なかだ
腔内で射精ぞ
いいな?

あゝ精子上ってきたあ♡

ふう...

又ポン♡

フホッ♡...

ビクッ♡

ん ビクッ♡

やっぱ♡
めっちゃ出た♡

タケシによって
いやらしく
作り変えられてしまった
私のカラダ

お腹の奥底に
感じる生暖かさを
感じながら
私はだらしなく
絶頂していた

フホッ♡

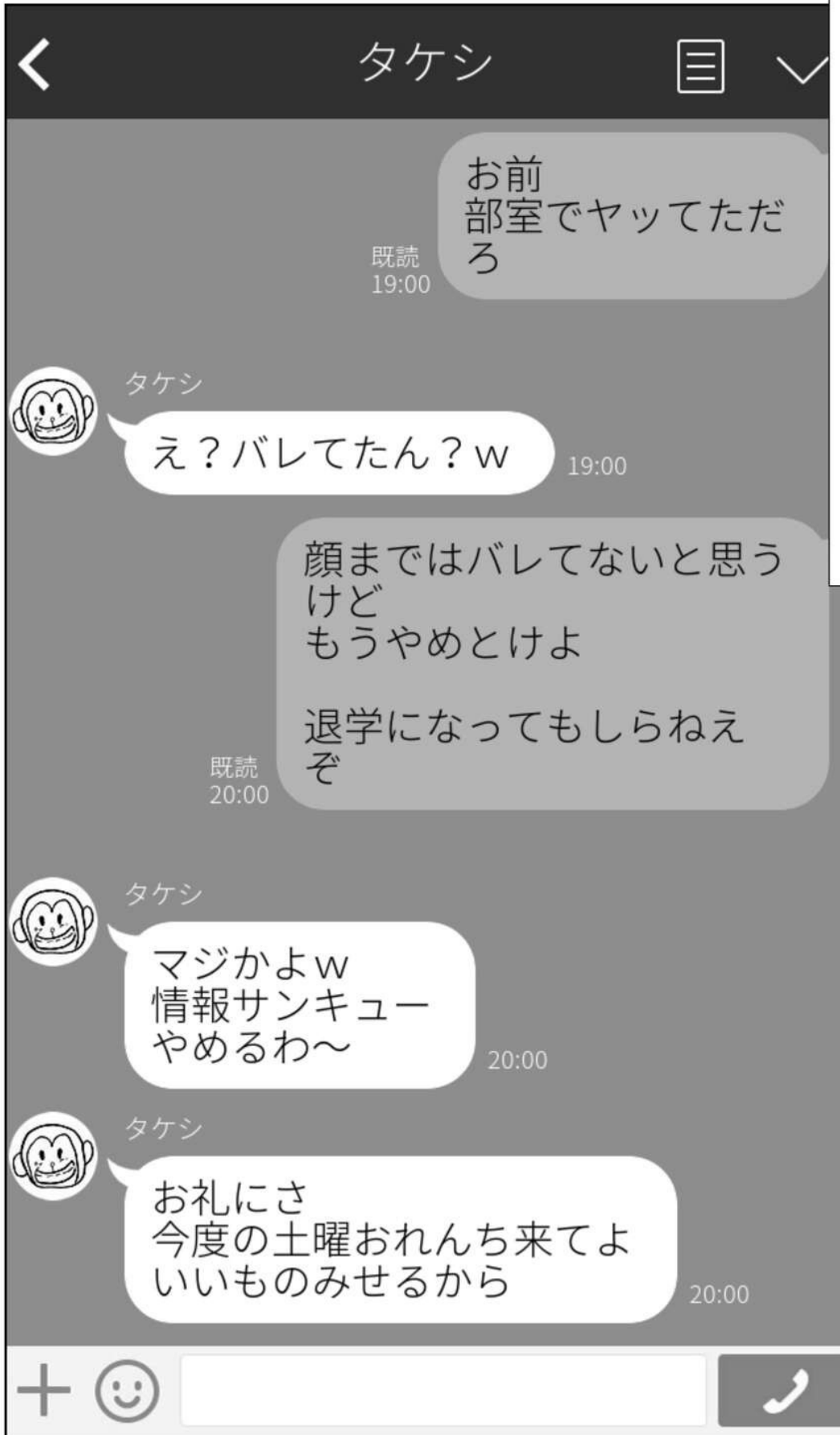
こんなただれた
関係は良くない
ハズなのに...
欲望に勝てない
自分に嫌気がさす
今は...
何も考えたく
ない...

ん ビクッ♡

ん ビクッ♡

ケータサイド

俺はタケシに連絡しておいた
退学されてもなんかアレだし…



お礼って……なんだよ







正直さあ
お前には
悪いと
思ってる
だぜ？

お前さあ
ユイのこと
好きだった
ろ？

それを
無理やり
奪った
みたいでさあ

ちよつと
気にして
たんだわ

べつ別に
好きとか

そんな
じゃ
ねーよ！

まーだ
んなこと
言ってる
のかよW
だからケータは
ダメなんだよ

でもよお
ユイは
まだお前の
こと好き
みたいだわ

ぐっ…

えっ

だからさあ
自信が欲し
いんだよ

俺の方が
気持ちよく
させられる
ってさ

そのために
お前にも
ハマてもら
おうってワケ
だから
いいだろ？

お前は
タダマン
できるん
だから

そ、そんなのユイが
許すわけがないだろ

ああ だから
顔は見せないよ

まあバレないように
上手くやるからさ

クローゼットに
隠れてくれよ
後で合図したら
出てきてくれ

カッ
カッ
カッ

えっ おい
ちよつ

カッ
カッ
カッ



クローゼット中

一応少し開いてるから部屋の様子は見えるな



おっきたか

ユイにいます

ビッポホーン



顧問マジキモいわ

あいつ絶対私達性的に見てるし



男の部屋に入ってるのに全く恥じらいが無い

こいつら一体何回…くそっ

部活かお疲れ

あー疲れた

まあ座れよユイ



ユイが部屋に入った途端女子特有の甘い匂いが部屋に充滿した俺の下半身が反応する

〜でさあ

へえそれってくだな

おいっユイお前そんなにスカート短かったか？ パ、パンツが見えてるぞ タケシのためにそうしてることか？

何気ない日常会話をする二人 タケシの左手がユイの太ももに触れている クソっ 見せつけてやがる これが「日常」ってことか！

だが、そんな他愛ない会話は10分程度で終わりを告げた。

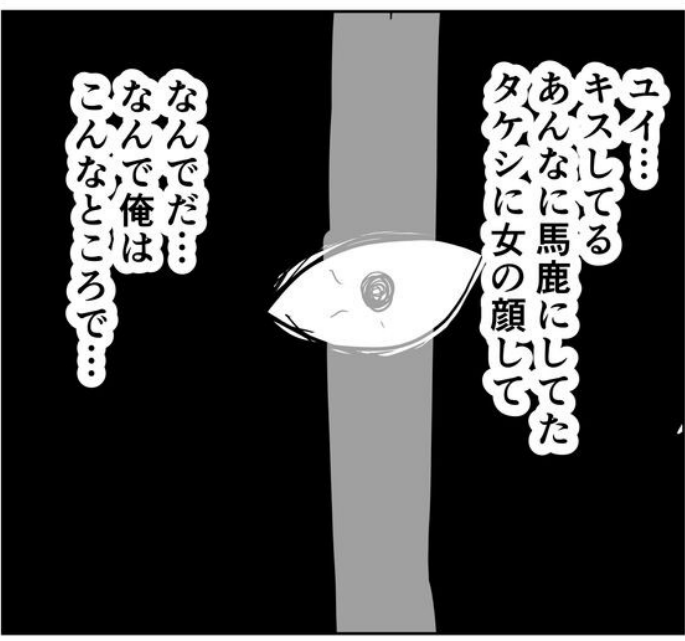


なあもう
いいだろ

あつ
ちよつと

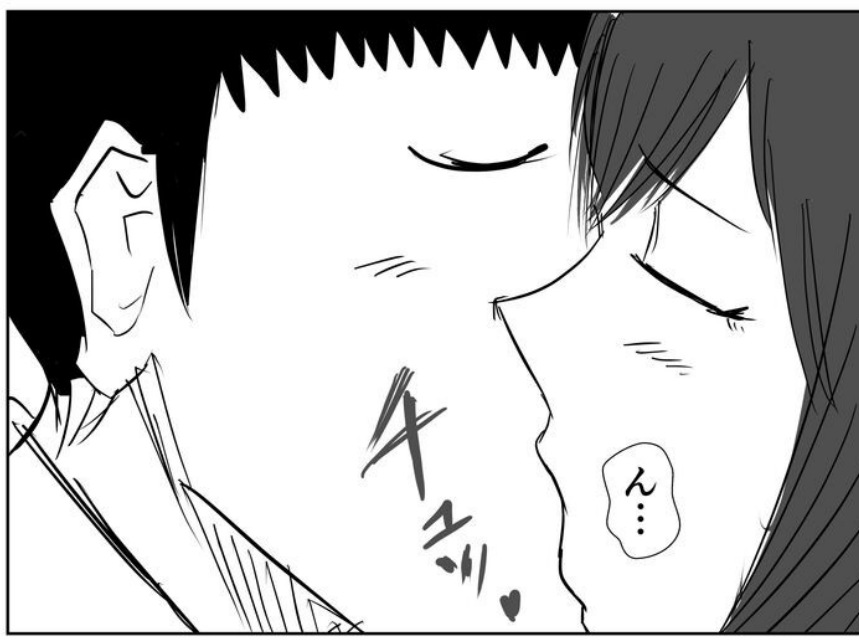
もう
早いよ♡

一気に雰囲気が変わった
ユイの目が「オンナの目」に
なっている
絶対に俺の前では
「見せてくれない目」だ



ユイ…
キスしてる
あんなに馬鹿にしたた
タケシに女の顔して

なんでだ…
なんで俺は
こんなところで…



ん…



唾液が絡み
あう音が

脳に
響く



舌しっかり
絡ませろ♡

恋人たちが
するキス

ぐわんぐわん

ぐわんぐわん



脱げよ

うん…

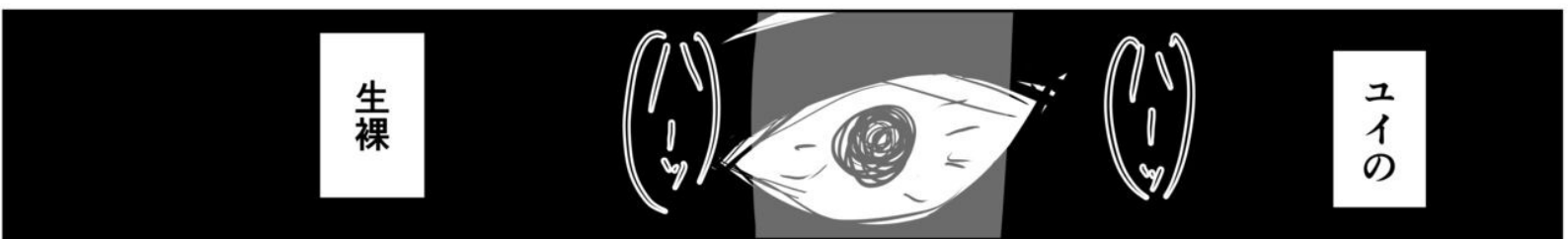
ゴッ
ゴッ

ひひ♡
相変わらず
最高の
乳してんな♡

さいてー…

そわ
そわ

そわ
そわ



生裸

ユイの



媚びたように上ずった声
熱を帯び、湿っていた
そうだ ユイはタケシに
媚びているんだ

あんなに蔑んでいたのに…
俺は心変わりを目の前で
見て敗北感に包まれた

もう何？
じろじろ
見ないでよ

同じような
セリフを言っても
その声色はまるで違う



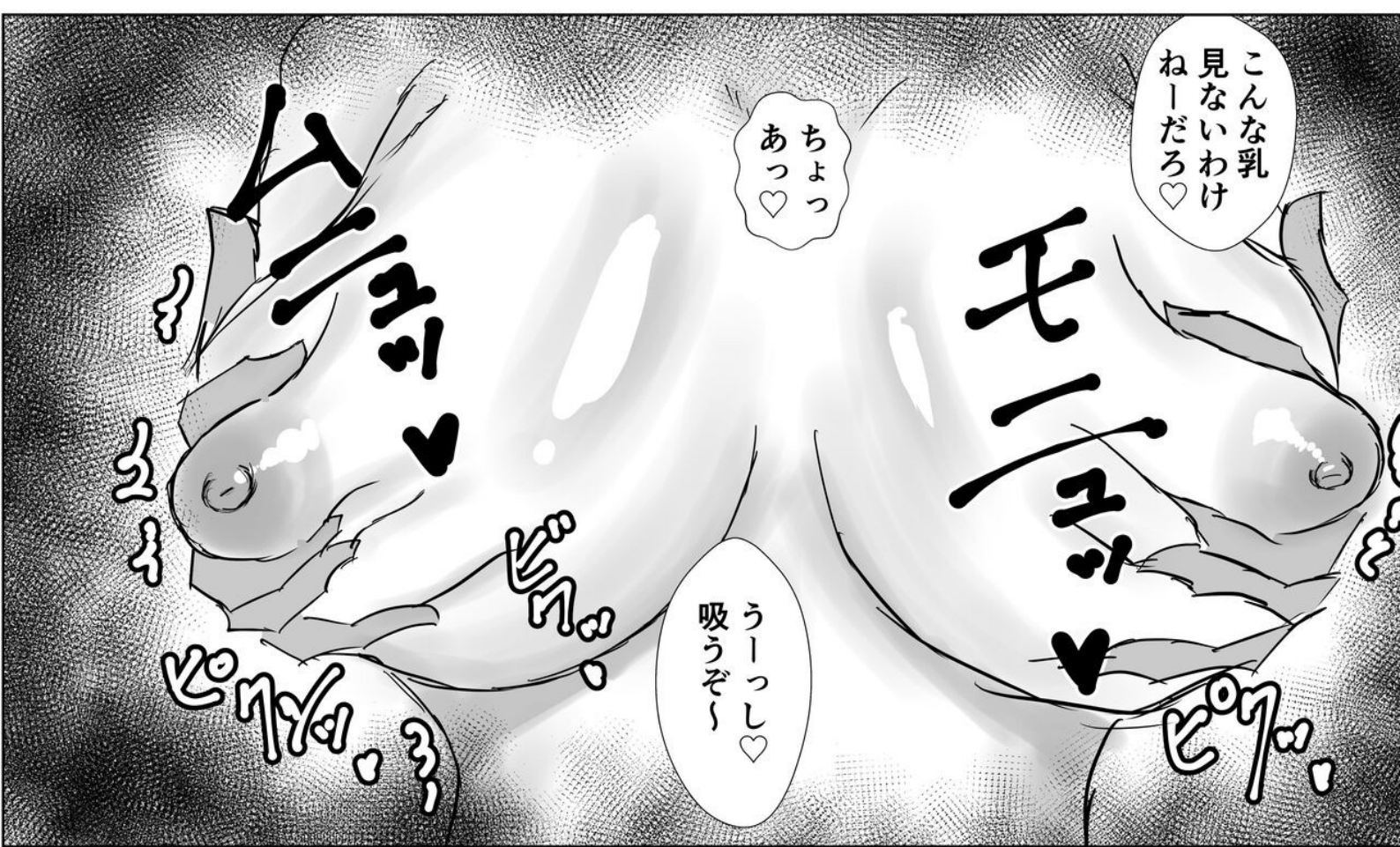
ユイ
おっぱい
見せてよ♡

お前に胸なんか
一生見せるわけ
ないだろ

タケシはさ
胸ぼっか
みてんの
バレてっ
からね？

ケータも
そいつと
いたら女子に
嫌われるよ？

あの
ユイが…



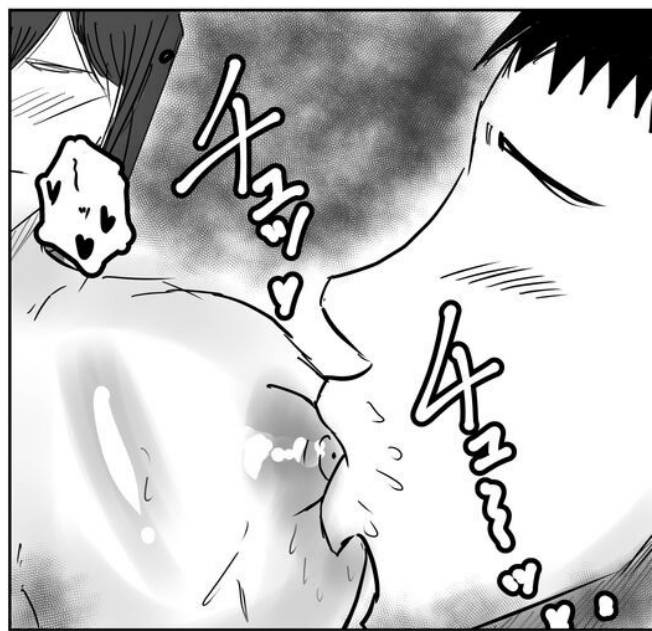
こんな乳
見ないわけ
ねーだろ♡

あつ
あつ♡

うーっし♡
吸うぞう♡



美味っ
うめえ♡
甘え♡



タケシのやつつ
ユイの胸を
赤子みたい
に吸いやがって！

股間が膨張
しすぎて
痛くなって
きた



ユイはこの浅めの
ところが大好き
だもんなあ♡



こっちも
濡れ濡れ
だな♡



いけ♡



ほらいきたい
んだろ？
イケよ♡

ダメダメ…
イク…！
イクイク…♡



ユイのイキ顔は
もはや俺の知ってる
ユイではなく

交尾のことしか頭にない
獣のようだった…

うっし
挿れっか♡

タケシは
俺のほうを見て
得意げにそういった

ムワァ♡
♡

タケシは俺に見せつける
ようにゆっくりと性器を
あてがう 生で…

おっほお♡
あつつ♡

膣内の熱さが
タケシの声から
伝わってくる

ぬる♡
ぬる♡

あゝ
エツロ♡
さいっこの
眺めだわ♡

これを見れない
なんて
ケータは
馬鹿だねえ

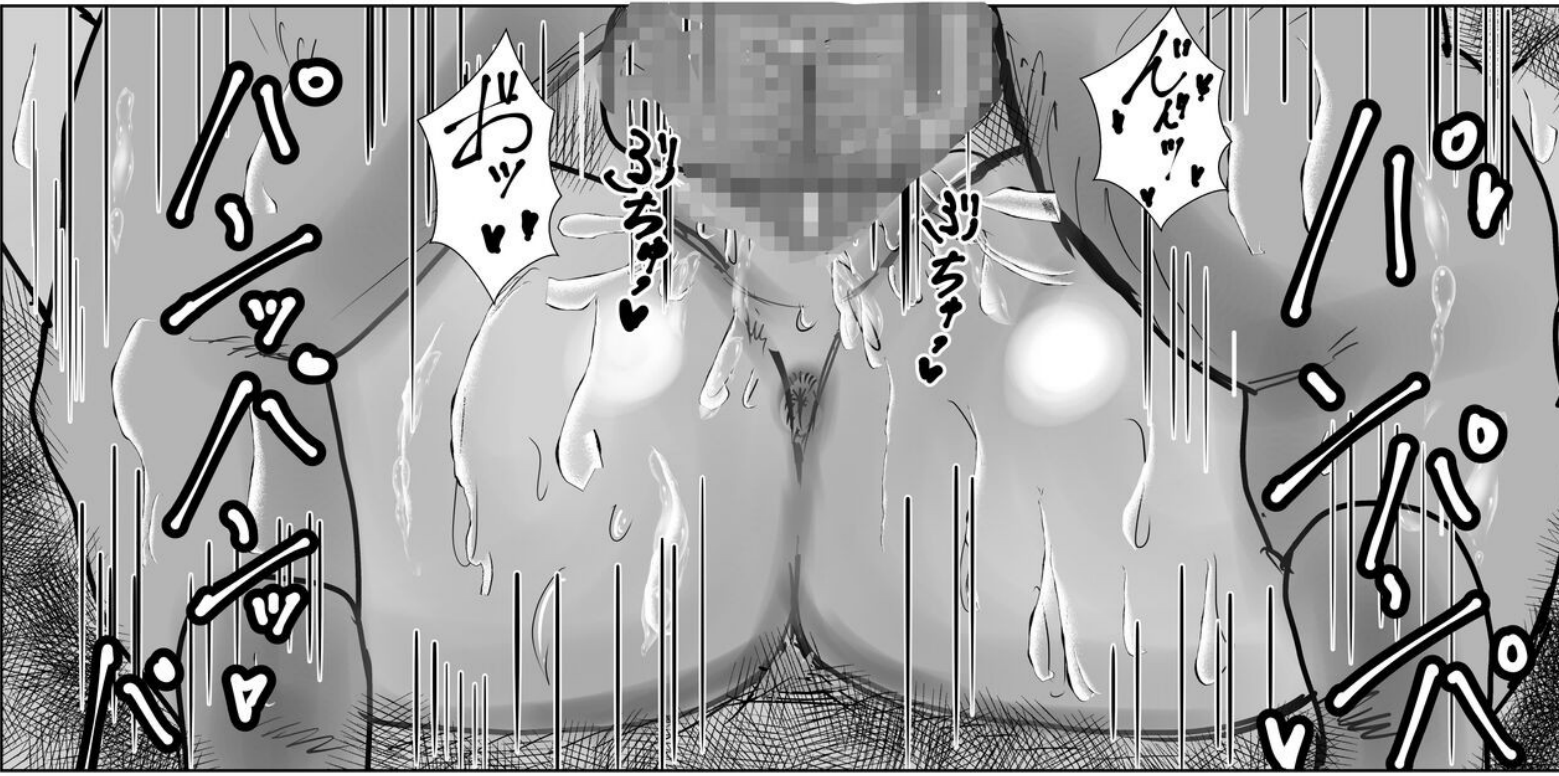
ケータのことは
言わない…っで♡

タケシは
明らかに
俺に向けて
言っている…

くそっ
ユイの身体を
好きにしゃがって…

ずち♡
ばち♡

ばち♡
ずち♡



は 彼氏

だいたい
ケーターケーター
ってよお...



俺だろうが!

あや

お前のマンコが
誰のものか

言ってみろ

え...

でも
そんな

口答え
してんじゃ
ねーぞっ

さっさと
宣言しろや
ボケ!

す、するっ
するからあ♡





タケシ専用の
オマンコ
だからっ♡

一番奥の
一番気持ちいい
ところガンガン
突いてっ♡

ケータのこと
忘れるくらい
オマンコ
めちやくちやに
してっ♡



タケシの…



よく言え
ましー

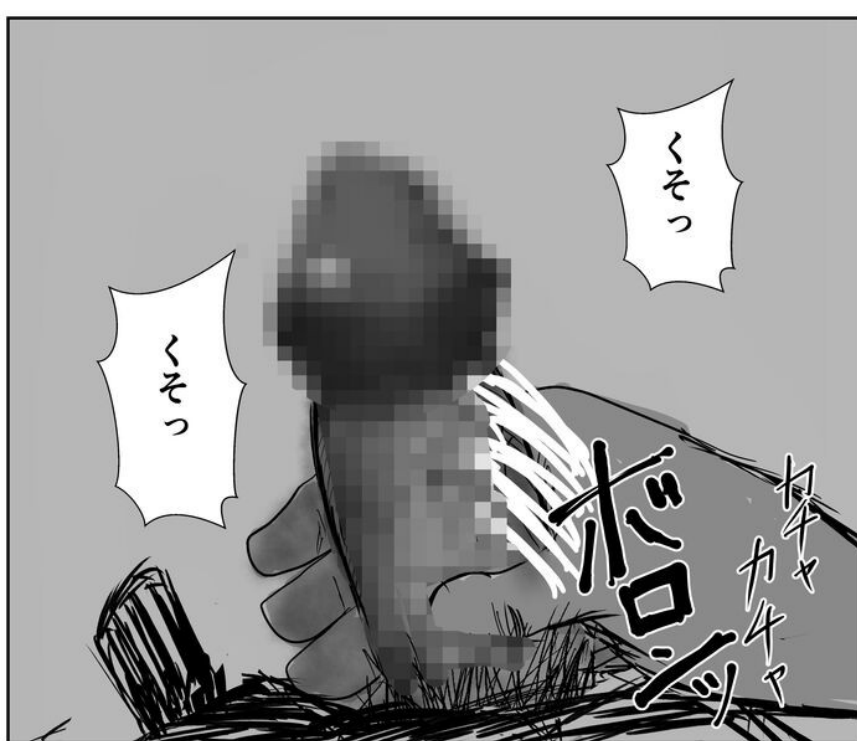
ぬどかっパク、
パク、

チンポに
屈服しろ！
馬鹿マンコが！

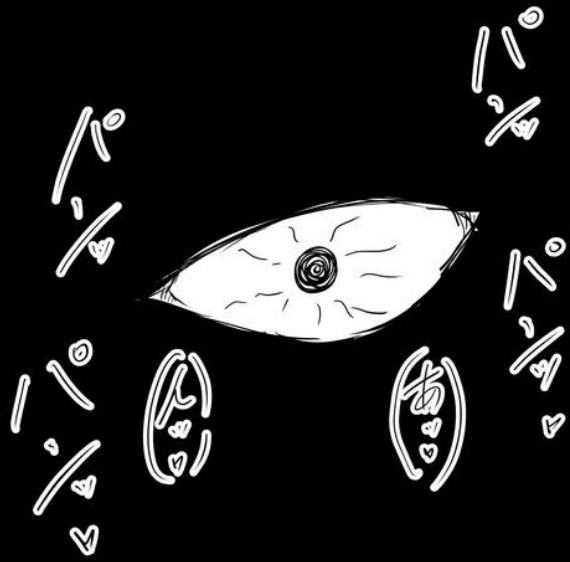


たっ

おっ



まさかそのまま
出すわけじゃないよな？



今って生だよな



精子あがって
きた〜♡

ユイ腔内
準備しろ♡



おい：
嘘だろ

赤ちゃんの
準備してる
からあつ♡

ダメ♡
今日
ダメな日
なのっ♡

腔内で
射精すぞ！



あゝ射精る
射精る

孕ませるしか
ねーだろうが！

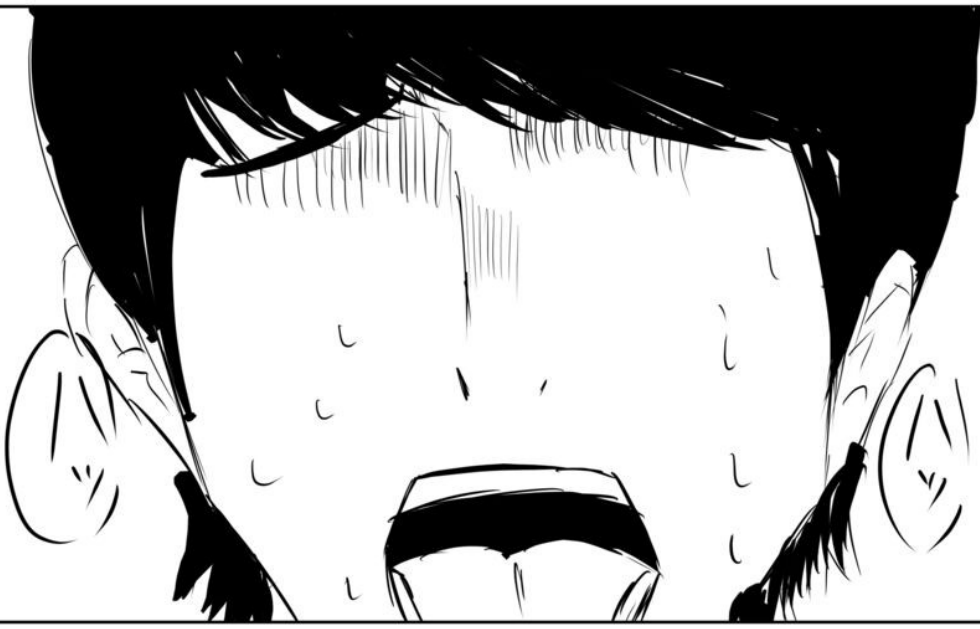


おいおい
ユイ
そんなこと
言われたら
よお



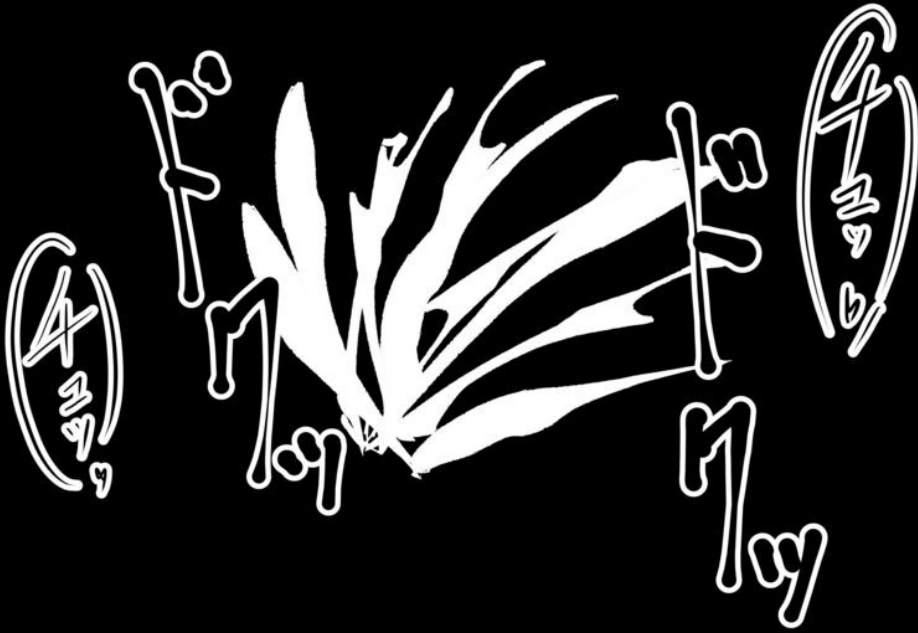
俺は…

吐くのを
必死でこらえていた



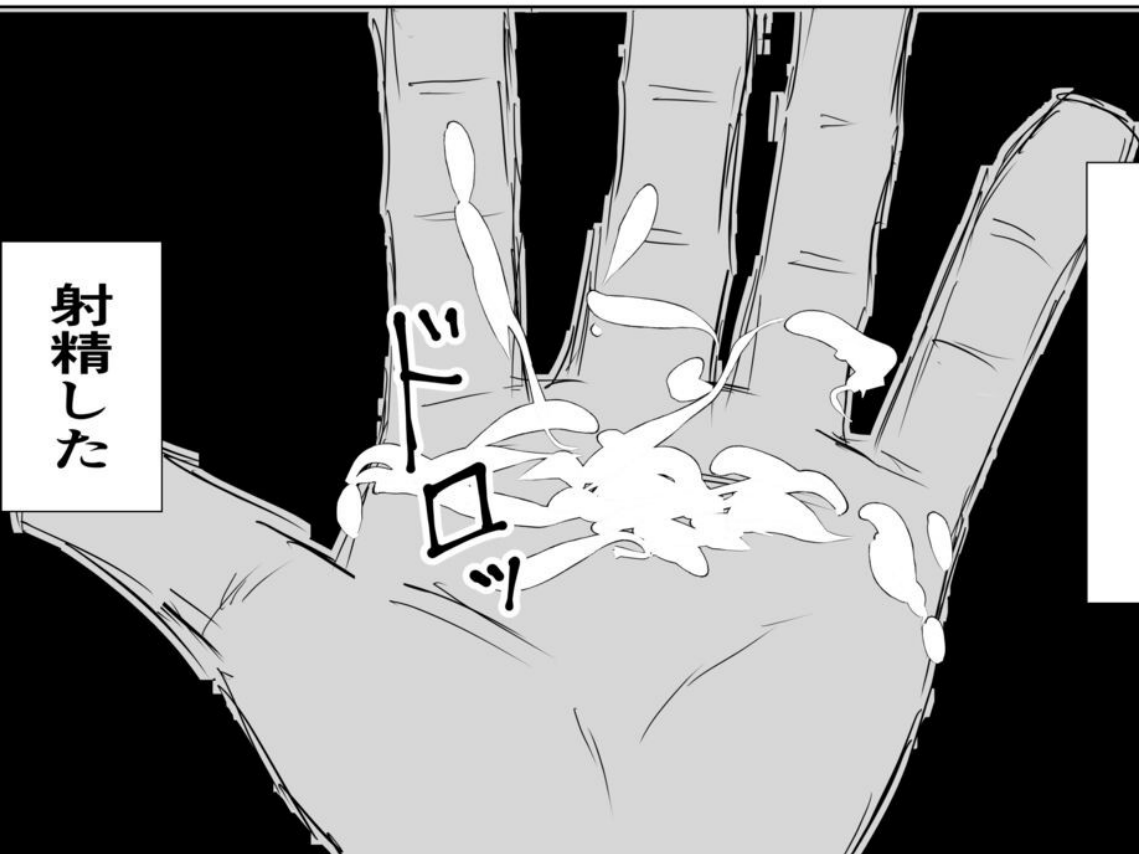
後悔と絶望の渦の中に
いるはずなのに
俺は、俺は——

キスをする音を
聞きながら——



ひどく興奮して

射精した



タケシがチンポを
引き抜くと

ドロリと精液が
漏れ出る

そのまま
タケシはユイに
何かし始めた

えーちょっと
なに なに？

グン
グン
グン

まあまあ
ちよっと
味付け変えるわw

どうやらユイの
顔にアイマスクを
つけたようだ

いったい
タケシは

もう
なんも見え
ないよ？

何を
つもり
する
なんだ…？



え、何？

タケシ：
どういう
つもりだ？

そのまま
待っててー



こつち
見た

くろっ

! ?



きたねえな
チンポ丸出しだよw
ティッシュで
精液ふいとけよ

わ、悪い
それで…
な、なんだよ？

言ったら？
ハメさせて
やるってよ♡



出て来いよ…!

タケシは俺にだけ
聞こえるように
そういった



お前

そうそう
つまりさ



そ...
それって

え



「アレ」

「使って」
良いぞ




使っ
てい
い
っ
て…

俺
が？
ユ
イ
を…？



ユイの秘所からは
いやらしく
白濁液が漏れ出している

ユイは何も言わない
まるでタケシの肉棒を
待ち望んでいるかのよう
熱のこもった吐息だけ聞こえる



俺は静かに衣服を脱いだ
いつもだったら
一発出して萎えたままのはずなのに

またすぐに出てしまい
そうなくらい膨張していた

カ
チ
ャ
カ
チ
ャ



ユイの秘所の先端に触れた
これだけでも
暴発してしまいそうだ

あ
…
…

やってやる
タケシ俺はお前より
ユイを気持ちよくさせる！

ピ
ト
…

うう…っ

危ない…あまりの気持ちよさに
声が出るところだった

まだ先端だけなのに
なんて気持ちよさだ

このぬめりがタケシの
精液だと思うと
嫉妬で気が狂いそうだけど…

ぬる…っ

あん。

ユイは俺の

ものだっ！





?

ズッ
ズッ
ズッ

どうだっ!

俺のは気持ち
いいだろ!?

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ねえ……？

なんだ……？
ユイの様子が
変だ……

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

あゝ？
なんだよユイ

さっきので
出し切ったの？

タケシが代わりに
答える

ど、どういう
ことだ？

なんだよw
どういう
意味だよ

ズッ

ズッ


ズッ

だって

全然「奥」
当たってないよ？

え…

ピクッ



届いてないから
全然気持ちよく
ないし：

その新しい
腰使いも
ちよっと痛い



タケシが
笑いをこらえている

俺は馬鹿にされているのに、
何故か劣等感を得れば得るほど
興奮を覚えていた

俺は、爆発しそうになって
咄嗟にチンコを引き抜いた

ええっ…
…っ…
…？…

くっ
くっ
くっ

くっ
くっ
くっ

くっ
くっ
くっ

くっ
くっ
くっ

な、なんで
出たの？

やばっ
ユイが目隠しを

…下…



えっ

ケータ...?

バレた...



.....

気まずい
沈黙の時間

先に破ったのは
ユイだった

ふうん…

ユイは一言
そういった
そして――

ニヤッ

怪
し
げ
に
笑
っ
た









えっ？

……

ハッ

ハッ



タケシとは
いつも……

ハッハッハッ……

三回も……？
きつと
汗だくで……



タケシは三回は
絶対するのに……

えっ

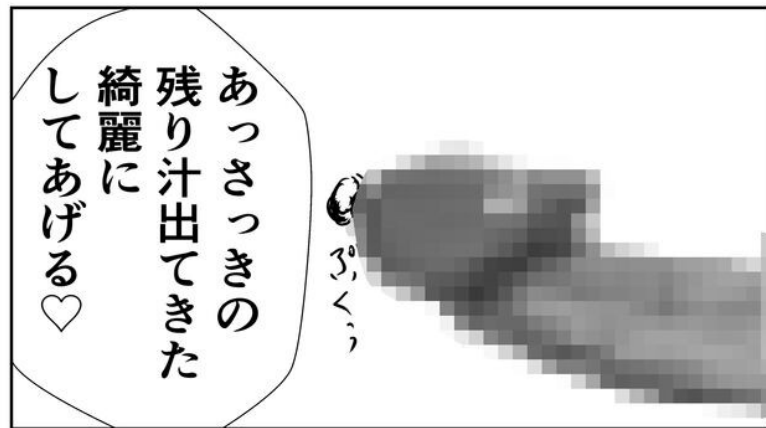


あれ……？
おつきく
なった♡

今ので？

ほんと変態

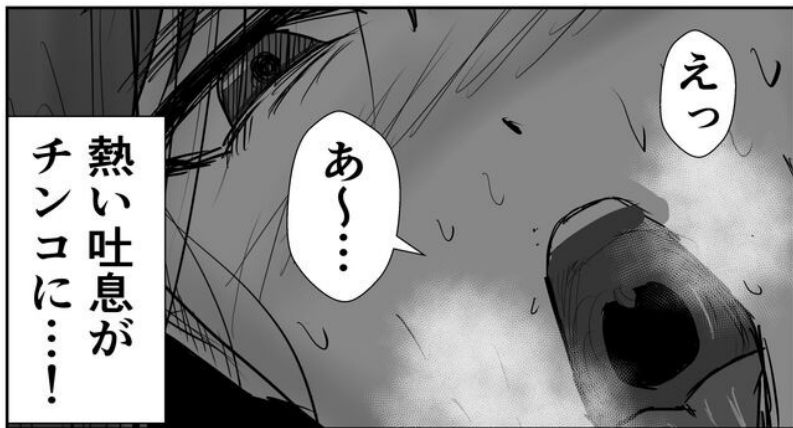
うっ……



あつさっきの
残り汁出てきた
綺麗に
してあげる♡

ぷく……

えっ



あ……

熱い吐息が
チンコに……！



吸われてる……！！

ハッ
ク
ッ

あ……

残った汁
全部！

ちゅぽん♡

ガチガチじゃん♡

こ、こんなユイ
見たこと
ない…

こ、こんな
風俗嬢みたいな
テクニク
いったい
どれだけ…
くそっ……！

やめさせなきゃ
俺がここで
ユイの

あっ！？

ビク
ゾク

そんな顔しないでさあ
ケータも楽しみなよ♡

タケシより小さいから
手コキしやすいね♡

くそっ
なんで

なんで

ぬちぬち、ぬち

自然なんだ！

びくびく
してるねえ♡

ぬちゅ♡

ぬちゅ♡ ぬちゅ♡

なんでこんなに

「タケシよりも」

ぐっ……

ビク
ゾク

ケーター射精を10分
我慢出来たら
ご褒美あげるよ♡

急にしごくのを
やめたと思ったら
そんなことを言ってきた

ご、ご褒美？

な・か・だ・し♡

さっきは外出し
してたけど
ホントはしたいんでしょ？

私の無防備な
オマンコに
びゅっ♡って

え……
あ、あ……

「駄目だそんなこと！」
そう言わなきゃいけないのに
俺は、子供のようにうなずく
ことしかできなかつた

しこしこ♡♡

うっ…

やばい…!!
気持ちよすぎる

上目遣いのユイに
10分も耐えるなんて…



ケータの我慢してる顔
すっごく可愛い♡

そんなに私の
中に出したいんだあ？

ち、ちがっ
俺は……

ヒョクッ

ふうん
じゃあやめる？

え…

別にやめても
いいけど

ユイの試すような
視線がささる
そうだ 俺は素直に
なれないからこんなことに…

だ、だしたい…!!
出したいです!

やめないで
ください!

俺は恥を捨てて
力の限り叫んだ



ふふふ…♡
そうだよねえ

じゃああと少し
シコシコに
耐えなきゃねえ

ああ…
俺はもう
抵抗できない…

射精後の
お掃除フェラ

涎だらけの
チンポを
手コキ

「綺麗好き」
だったはずの
ユイがそんな
ことをする
なんて！
ありえない

つまり……
「仕込まれた」
んだ

タケシに

ユイの
「全て」を

最初は
嫌がったはずだ

それでも
タケシはきつと

しゃぶらせ
続けた

それはやがて

何分
させる気
だよ……

くっさ！
マジでちゃんと
洗えよ

「奉仕」に
変わったんだ

まだ
奥に
残ってる♡

じゅわん♡

ちゅ♡



タケシと
映画館にいった
あの時も


デートじゃないわよ
あんなの



タケシと授業中に
保健室にいったあの時も

大丈夫だよ
うん

ユイは「何もなかった」と
いったけど…
あの時すでに彼女は…



知らぬ
間に…

浸食
されて
たんだ

タケシの
デカイ
チンポを
無理やり
ねじ込まれて

ユイの
身体は

タケシを
喜ばせる
ための
道具として



口オナホ
さいこー♡

仕込まれ
たんだ

んぐ、
んぐ、
んぐ、

ちよつと
ケータ

そして今

俺の前に
いる彼女は

どこ見てんの？
イキそうなの？

じゅん...

俺の知っている
幼馴染じゃ
なくなっちゃったんだ

ま、待って
ユイ俺今
かなり限界で

ビクビク
震えてるけど...

本気出しちゃお♡

生暖かい
マズイ…

さっきまで
ユイのこと妄想
してたから
なんか背徳感が…!

ハッ
クッ

気持ちよすぎるっ
こんな卑猥な
音の出し方も

タケシから
教えられたって
いうのかよ…!

ぽっ
ぽっ
ぽっ
ぽっ

じゅるるるる
ぽっ
ぽっ
ぽっ

不意に
ユイが
上目遣いに

ユイの目は
全てを見透か
している
ようだった

ぽっ

チャッ

卑猥な音を聞きながら
俺は射精しないように
目をそらした

ぽっ
ぽっ
ぽっ
ぽっ
ぽっ
ぽっ
ぽっ
ぽっ

だけど
ユイの尻が
時々左右に揺れながら
俺の射精欲を煽る

ユイの吸いつぎと
しごきが急に
強くなった

我慢しようとして、
引き抜こうとするが、
ユイは離してくれないし
むしろさらに強くしてくる

精液が漏れ出る…
もう無理だ…

じゅわんじゅわん
ぐちゃっ
ぐちゃっ
びゅん

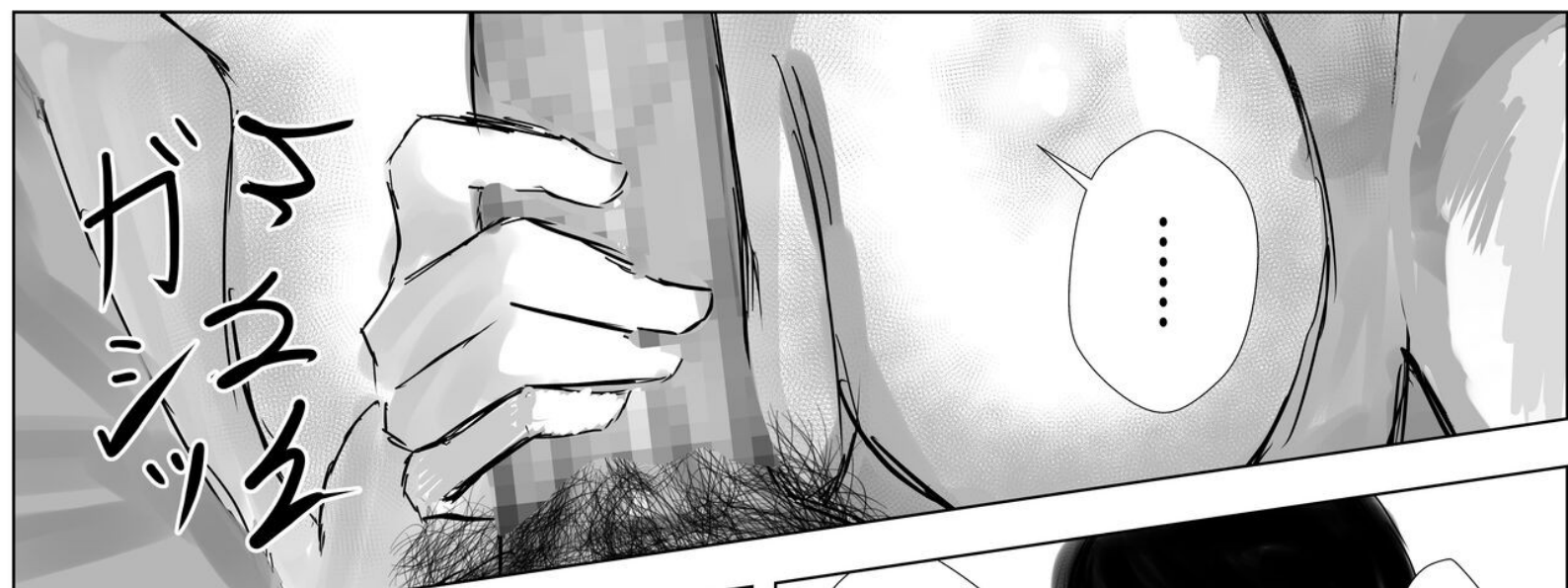
びゅん

駄目だ
出る…

あつ…

きゅん♡

びゅん
びゅん
びゅん



ガツ
ツツツ

……



早漏雑魚
チンポは

さっさと
残りも
出し
ましよう
ねえ♡



あつ

今出した
ばっかで
敏感だから…
ちよつと…!

ツツツ
ツツツ
ツツツ

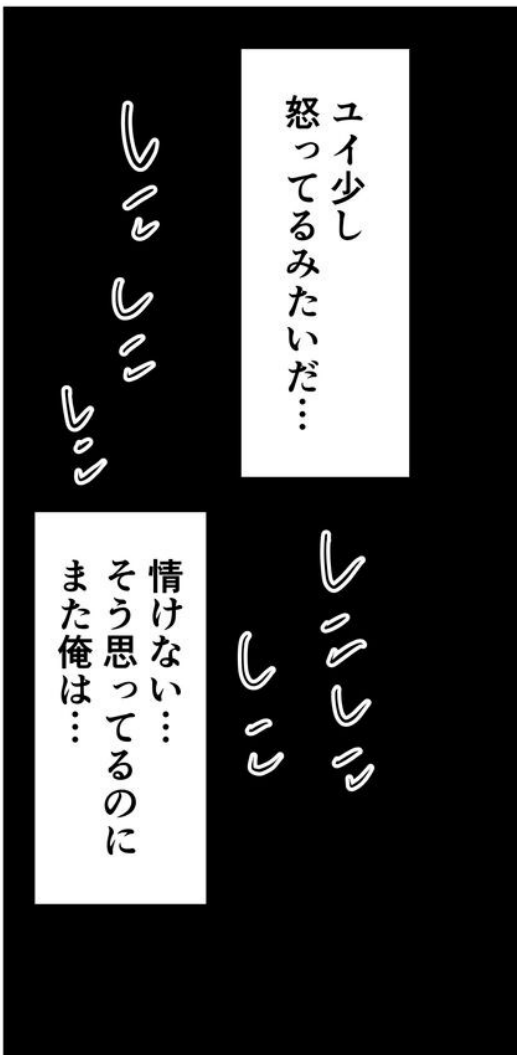


あ…

あつ…
出る…!

ツツツ
ツツツ
ツツツ

ツツツ
ツツツ



ユイ少し
怒ってるみたいだ…

ツツツ
ツツツ
ツツツ

情けない…
そう思ってるのに
また俺は…

ツツツ
ツツツ



もう全部出た……
なんにも出ない……

それでもユイは
残りの汁が
出るようにチンコを
ぎゅうっと握る



絞って
出てきた最後の一滴を

ユイは舌で
丁寧
そぎ取った



あーあ

ぬちび...



俺はどいまで
いっても...



ああ...

ガクッ



中出し
失敗♡

ずっとタケシの事を
下に見ていた

成績だって良くないし、
スポーツだって
たいしたことない
俺より下だ

だからタケシが
ユイにアプローチ
したって絶対に
上手くいくわけないと
そう思っていた

けどあいつには
行動力があつた

俺にはないその力で
俺が何もしてない間に
あいつは…

チャンスは何回も
あつたんだ!

今だって!
我慢さえできてれば…
でも俺は…



タケシは俺に
見せつけるように



サービスで
飲んでやれよ
ユイ

ユイの口を開いた

そう言われた
ユイは

ためらいなく

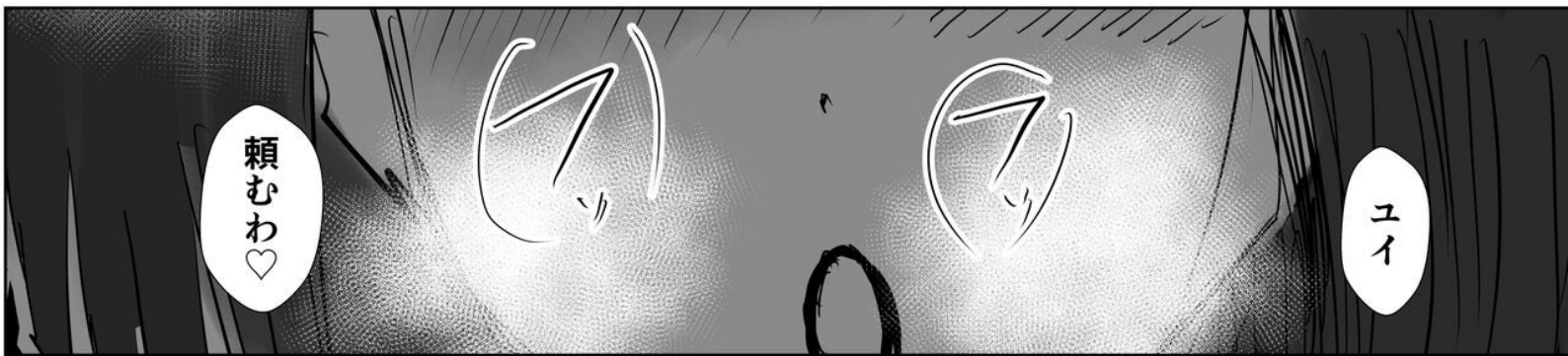
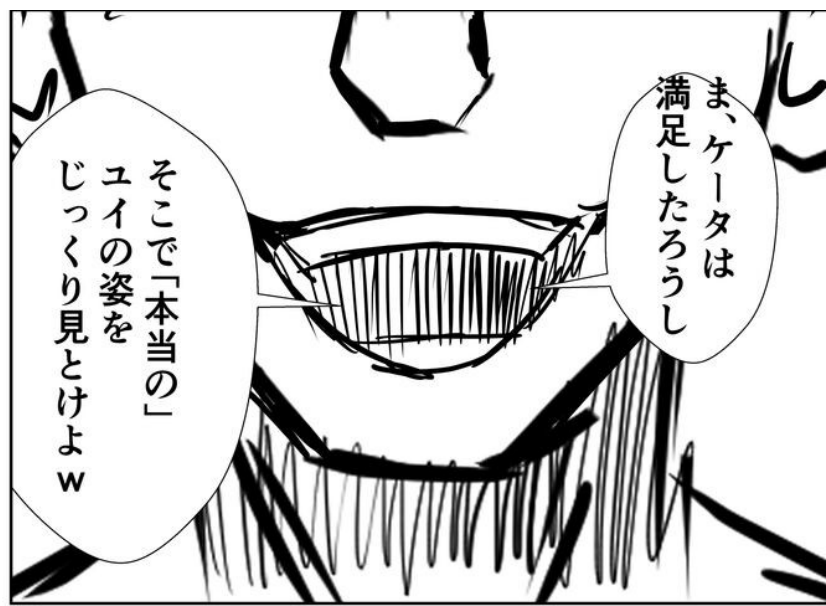
飲み干した

ゴク
グ
ニッ♡

慣れたように
咀嚼すると

モク

モク



ユイの表情は
俺の時と
まるで
違っていた

心の
どこかでは

俺の事が好き
なんじゃないか
ってさつきも
思っていた

でもユイは…



俺のチンコと全く違う
タケシのそれを見て
うっとりとしていた



その表情は
俺には絶対
見せることのない
正に——


“雌”の表情だった





もう俺の事など
忘れたかのような
ユイの態度


目を背けたいのに
見てしまう




物欲しそうに
尻を振り



喉の奥まで
しっかり使って



一心不乱に
しゃぶる



おねだり
しろ♡

俺は今から
見せつけられるんだ

よーし
そろそろ
入れんぞ♡

そんなユイの
本気セックスを

ぬちやれ

さい
くだ

私のびしょぬれ
オマンコを

タケシのぶっとい
オチンポで
ズポズポしてくださいっ♡

はよあ

よく
できま
した♡

タケシは
じらすように
ゆっくりと
狙いを定めると

ぬちっ♡

ゆっくりと
奥まで到達した

ぐちっ♡

ぬるる♡





絶望で
脳が溶けていく

ユイの「女」の声が
部屋に響いている



もう勃起もしないのに
俺のチンコからは
変に液体が漏れ出ている



イク…
またイク…ッ



舌出せ

ケ、ケータの前で
キスは…

そういつて
ユイは…



こちらを
一瞬見たが…

キラッ



タケシは腰を
グリグリと
押し付け始めた

ん？
強がるなよ
ユイ

ほら一回だけ
キスしようぜ♡

い、一回だけ
だからね♡

一回だけ
そう言って
唇を許した
ユイだったが…

五分後

そこには
軽イキを繰り返して
ながらキスを続ける
ユイの姿があった

イク…
また
イク…

ユイ…！
ああ…
ユイ…

ユイ ケータに
なんか言う事
あんじゃねーの？

あ…でも…

言わねーと
スパートかけて
やんねえよ？

言う！
言うからあ…！



ケータツ
ごめんね！
好きだったけど

あなたの前で
イキます！
だって――



キモチいいからっ！！
もう無理なの！！

み、見ないでっ♡
見ないでっケータっ♡

あっあっあっ♡
イクイクイク――♡♡♡

おらいクぞ
マンコ締めろ！



あ？



マンコ
屈服しろ！

ドクドク



ただ…

告白してれば
付き合えたのに

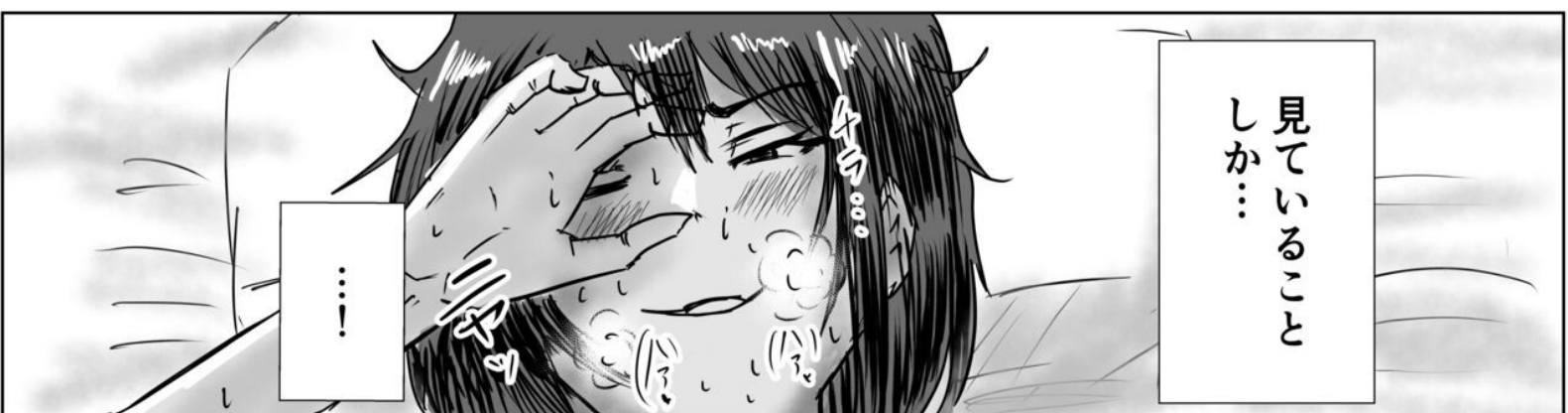
我慢できてれば
中出し出来たのに
どこかで
止められたはずだ

本当に気付いてなかった-?



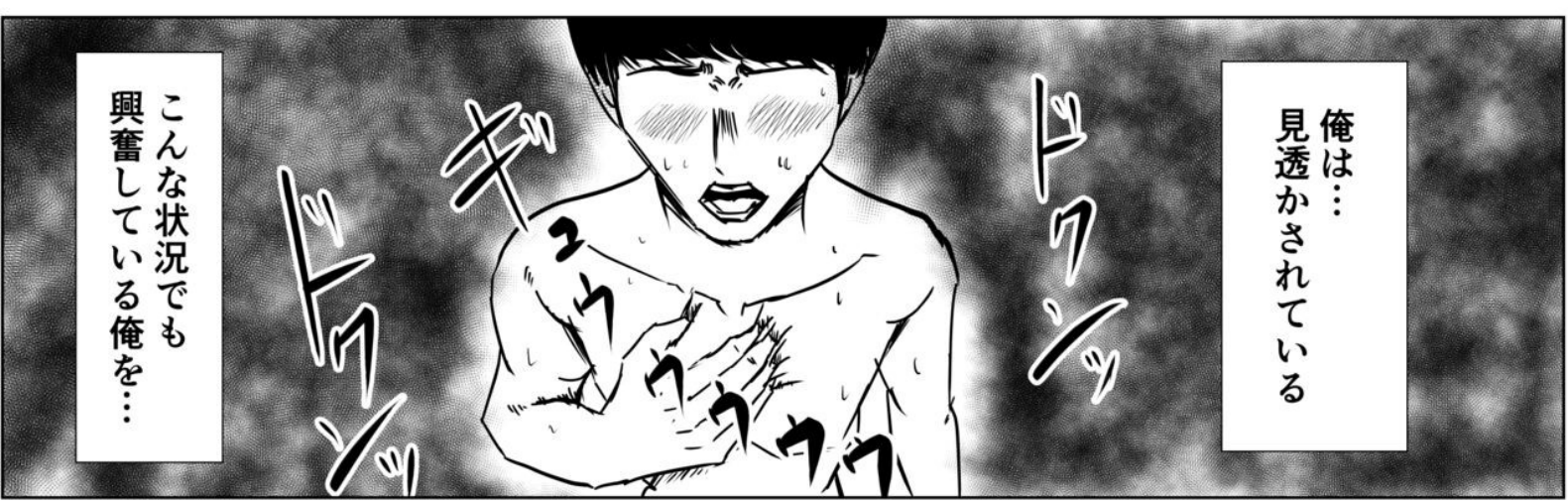
俺は…

何も出来ない



…!

見ていること
しか…



こんな状況でも
興奮している俺を…

俺は…
見透かされている



おい
ケツ出せ

ハイ…♡



ま、まだやるのか…?
い、いったいどんな…

へへへ…
最後はケータにも
よく見えるように
やってやるよ♡

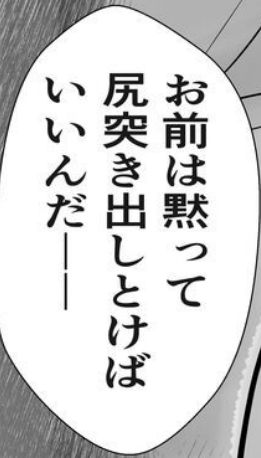


早く...♡



押し当てやがって

エロ女が♡



お前は黙って
尻突き出しとけば
いいんだ——



最高の眺めだな♡

♡
!

♡
!

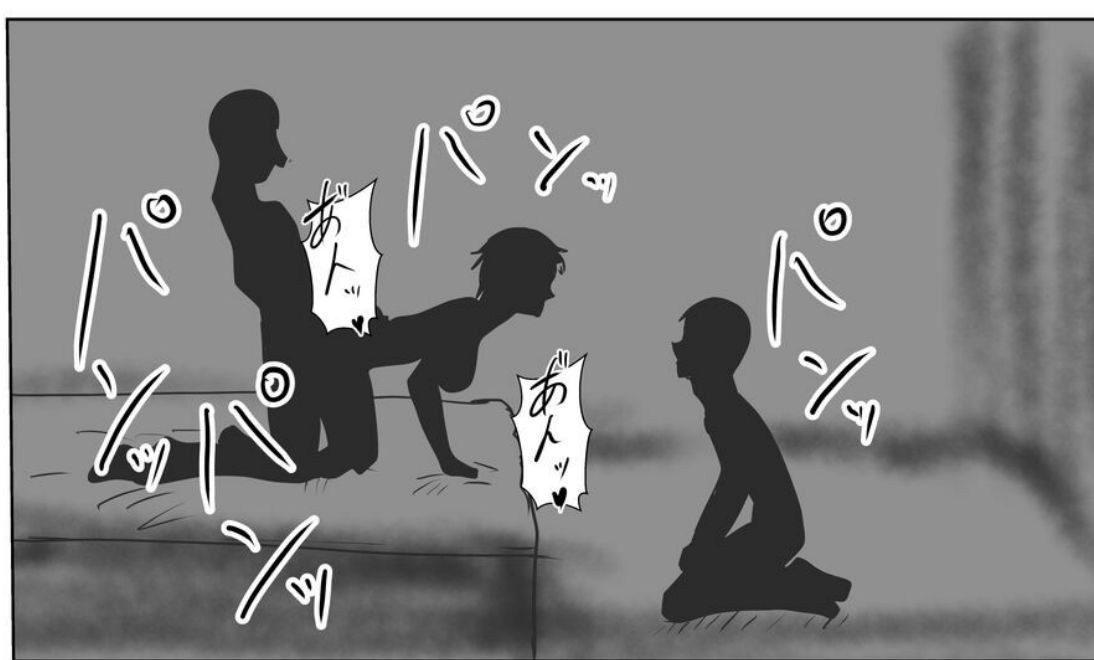
♡
!

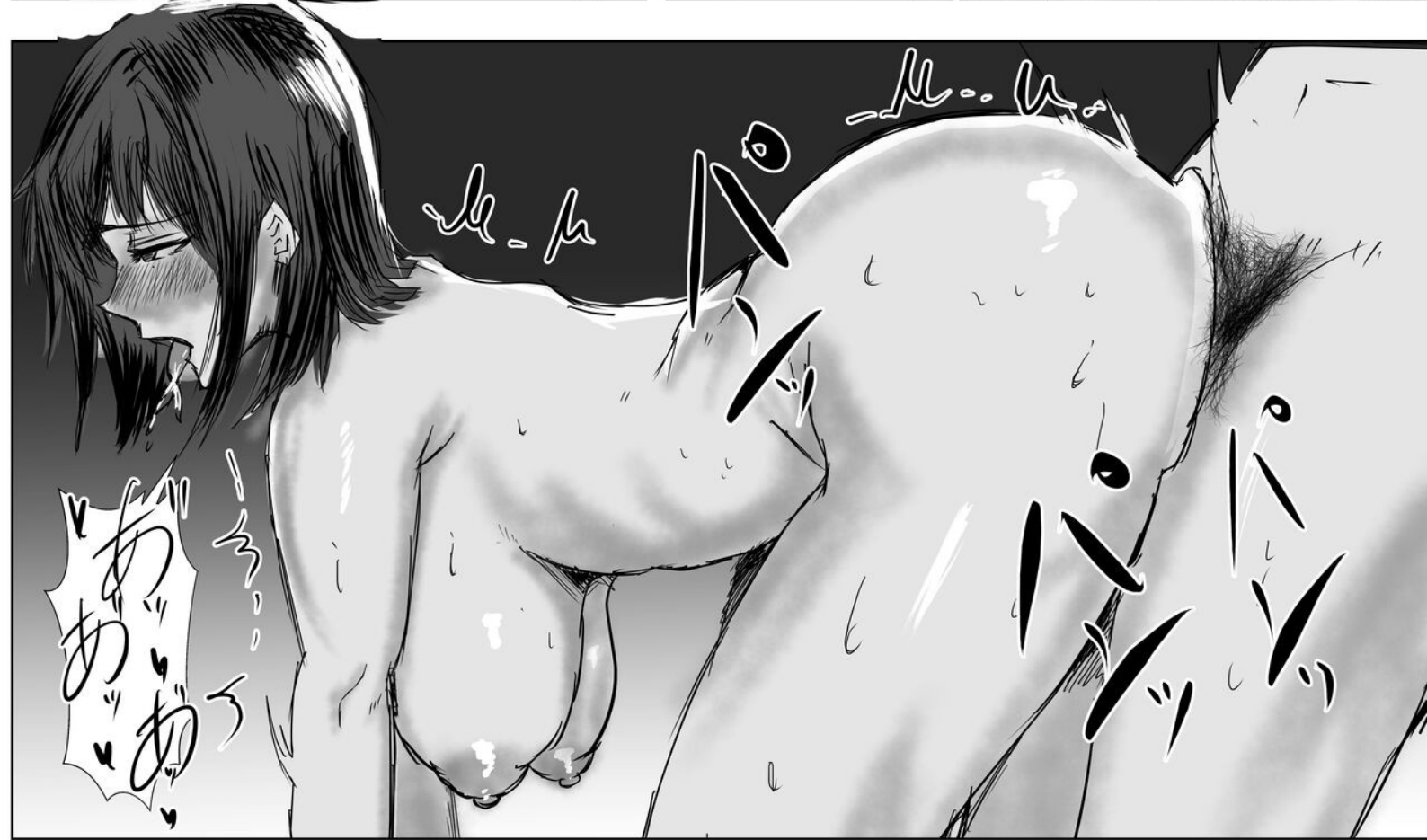


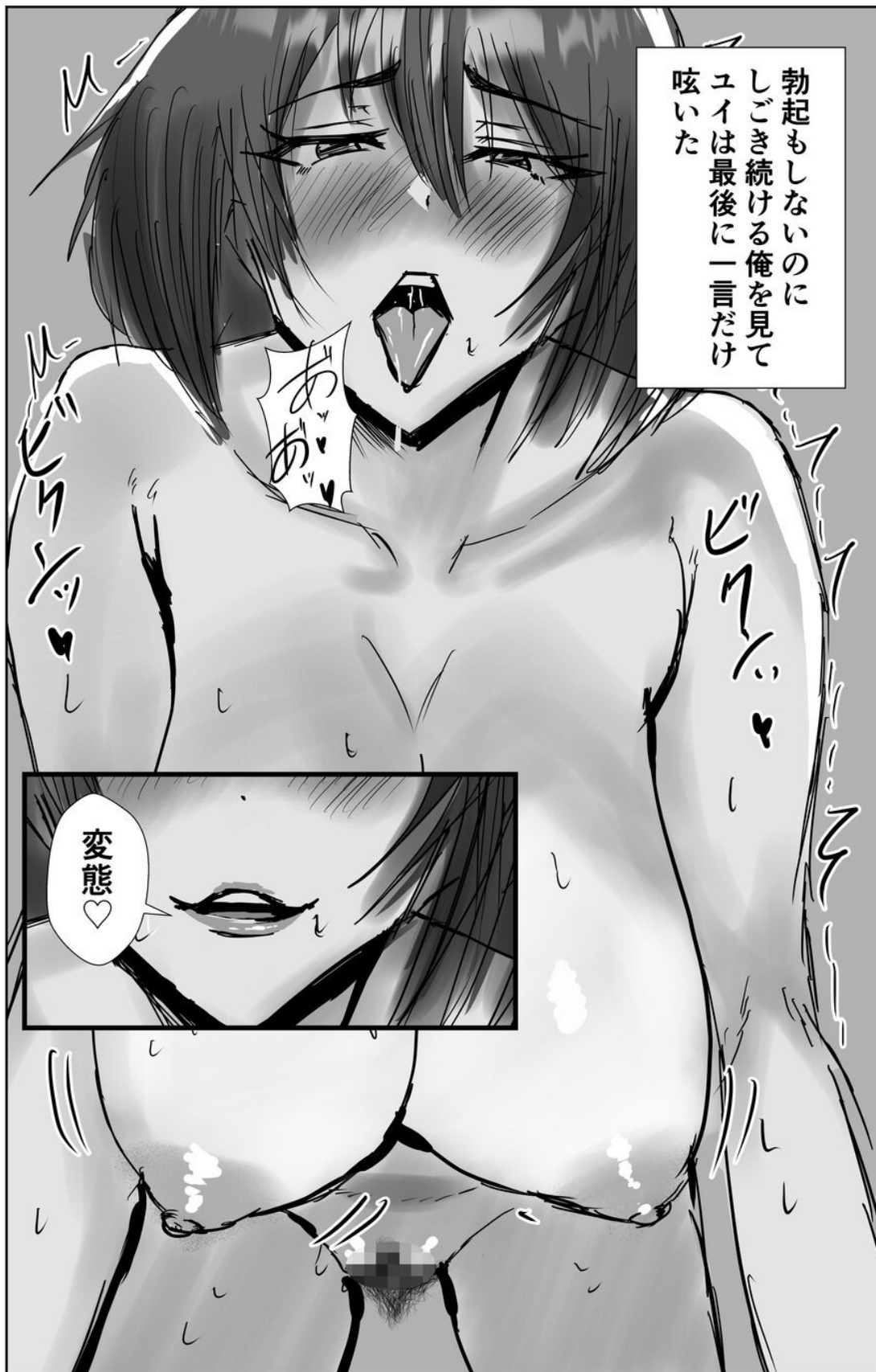
液体の混じった
ピストン音

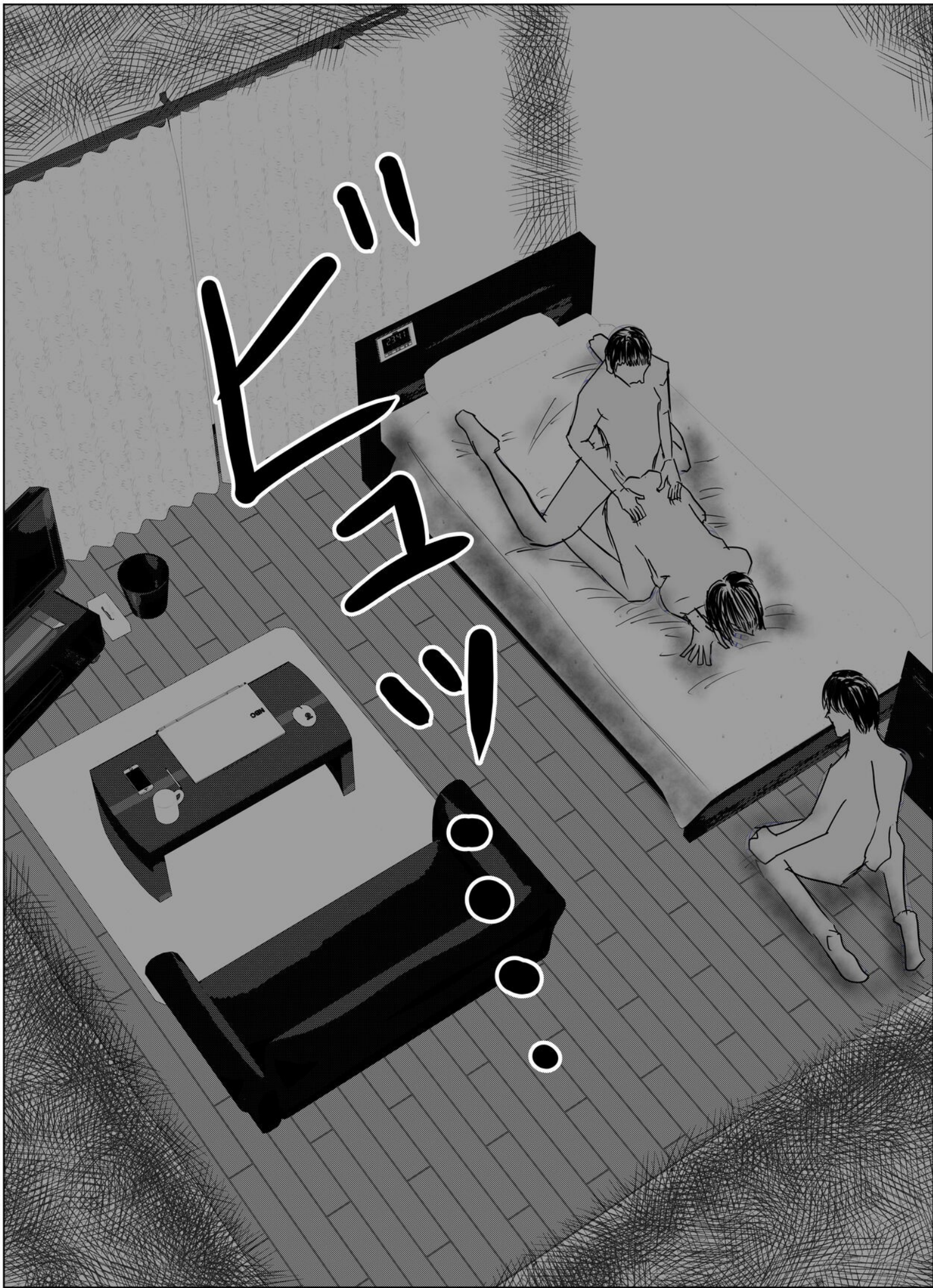
突かれるたびに
軽く痙攣する
ユイ

揺れる乳房を
見ながら
俺はただただ
絶望を
かみしめる

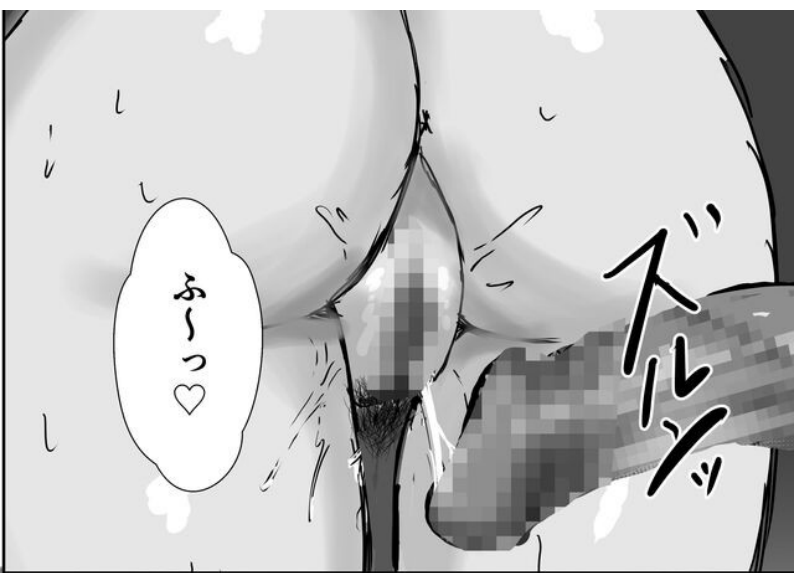














うん…♡

ユイ 自分で広げて
ケータに見せつけてやれ♡



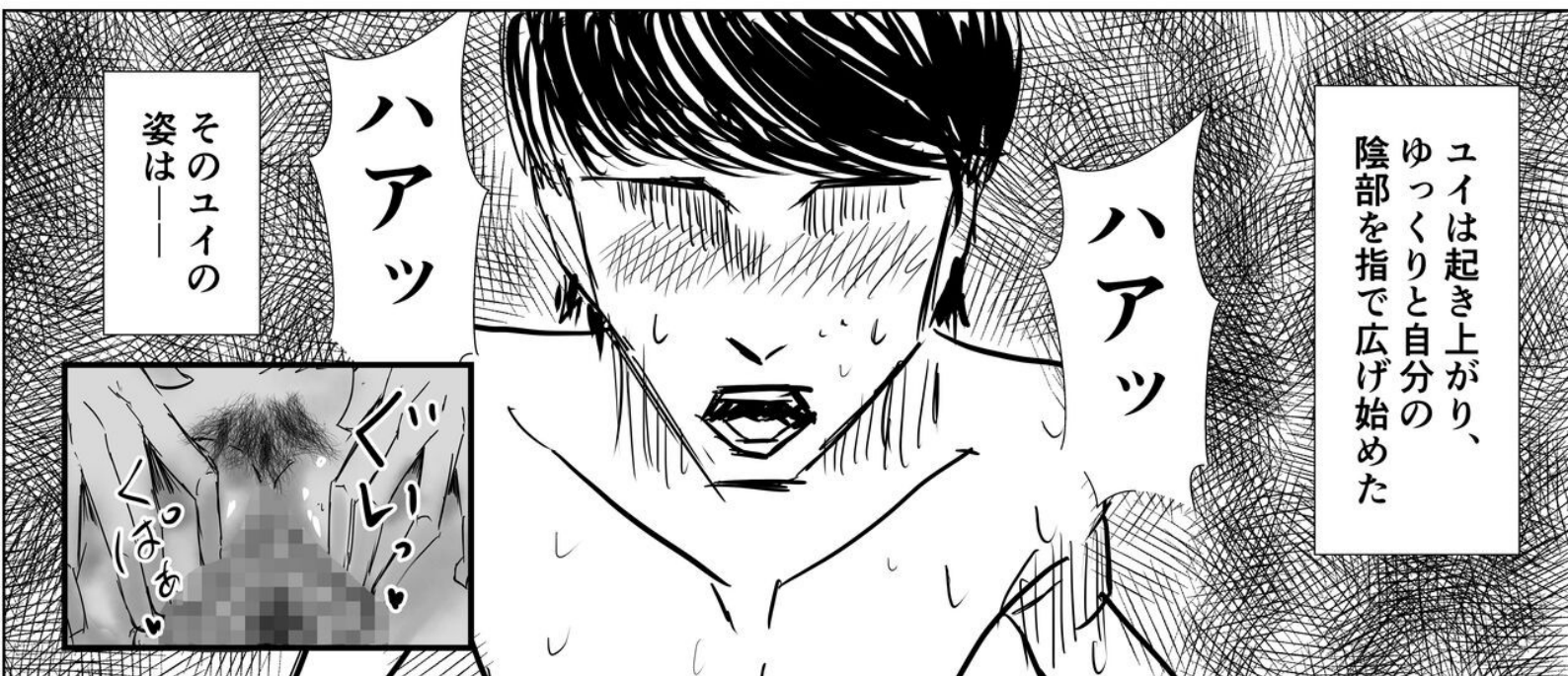
勃起して
ないのに
精液が
出てきた…

ハアツ

ハアツ

ポタ

ポタ



ユイは起き上がり、
ゆっくりと自分の
陰部を指で広げ始めた


そのユイの
姿は——

ハアツ

ハアツ



くっ
くっ
くっ
♡



ユイ仕上げに
「アレ」頼むわ♡

わかった♡

そう言うとユイは
仰向けになって
タケシの肉棒を愛おしそうに
舐め始めた

手コキと
裏筋ナメの
合わせ技
サイコー♡

ニ
ユツ

ニ
ユツ

ちゅ♡
ちゅ♡

あくそろそろ
イクわ
イクイク…

イクっ

んっ♡

んっ♡
んっ♡
んっ♡

ド
ッ

そうそう
出てる間も
舐め続ける♡

残り汁が
出てくる
からな♡

そしたら
亀頭周りを綺麗に
掃除しろ♡

よし
最期は搾り取れ♡

最後の一滴まで
吸いつくせよ♡

ジュブ
ジュルッ

これこれ♡
射精後の敏感な
チンポを
吸いだされるとき
この快感♡

くすぐったいけど
気持ちいい
射精が続いてる
ような感覚♡
やめらんねえ♡

グッ
と

ちゅ
ちゅ
♡

ちゅ
ちゅ
♡

ちゅ
ちゅ
♡



あゝ
全部出たら
催してきたわ♡

ユイ
「出して」
いいよな？

催してきた
って…

ん…

まさか…
え…？
ユイも当然
みたいに



あ…

ちゅろ…



出された小便を
ユイは躊躇なく
飲み干していく



風呂ん中
で小便
してる
みてーだ♡

あゝ♡
極楽♡
極楽♡

じょろろろろ...ろ



ふいゝ♡
もうなんも
でねえわ♡

結局ユイはタケシが
出した全てを
飲み干した

ちゃっっ♡

んんん♡

行為が終わり
丁寧に掃除を
するユイを
ただぼうっと
見つめていた



もはや
俺の事なんて
忘れて必死に
ご奉仕する
その姿を見て
喪失感と
興奮を得る

もう戻ってこないあの日に
思いをはせながら

俺はその日
“全て”を失った



おまけ

とある日のタケシとユイ



よし まずは たっぷり嗅げ

フッ
フッ

はあ〜
くっくっくっ♡

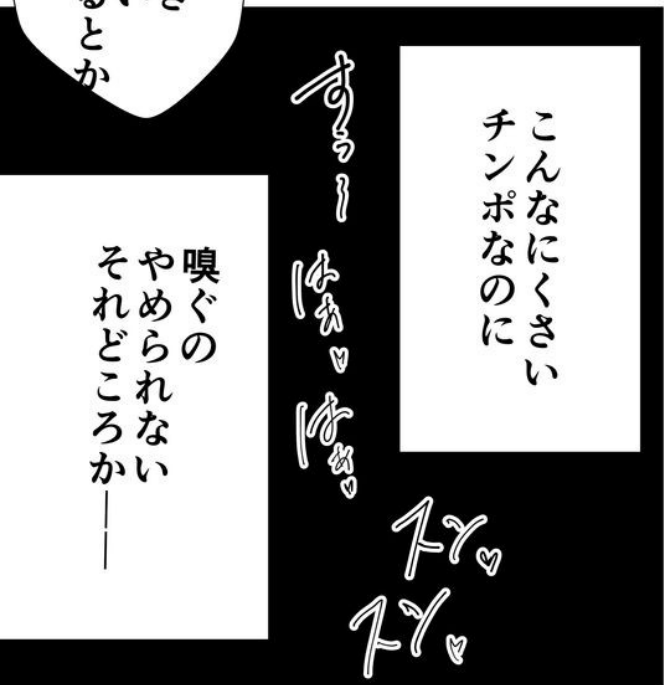
マジでくさすぎ
こんなくっさい
チンポ臭がせるとか
ありえない



もわあ

ほら ユイの
大好きな
チンポ臭だぞ♡

っ!
嫌いよ…



こんなにくさい
チンポなのに

すっ〜はあ♡はあ♡

フッ♡
フッ♡

嗅ぐの
やめられない
それどころか—



おーい
ユイ?

フッ
フッ



よし もういいぞ
ん?



やっぱりな♡

ニヤッ



こいつ…
もしかして

ズンズンズン

あつ
ちよつと



あんまり見ないでよ

うー
ちよ、ちよつと

い
わ
あ♡

前は

そのうちこの
チンポ臭で興奮する
ようにしてやるからな♡

きつも!!
バツカじゃないの?
ありえないっての?

って言って
たのに...

こんなくっさいの
臭がせるなんて
頭おかしんじゃないの♡

すっかり
チンポ臭の
奴隷だ♡

あゝ
くっさあ♡

ほあ♡

ほあ♡

あゝ♡

スッ♡

スッ♡

きゅ♡

こんなにて
カスつけて
何日お風呂
入ってないの
かしら♡

チンポだけ
三日洗ってねえ♡

サイッテー♡

はあくつあひ♡
裏筋くつさあひ♡

よしし
命令だ

綺麗に
チンポを
舐めとって
掃除しろ

カスのひと
かけらも
残すなよ♡

ぬる...
ぬる...
ぬる...

ぞろぞろぞろ

くちゅるるる

喉奥のコリコリが
気持ちよすぎてやべえ♡

チンカスが溶けて
無くなっていくのが
たまらなく気持ちいい♡

だ、だめだ
我慢できねえ♡

ガンガンいくぞ♡

ぐぐぐ

グググ
トググ

喉を
マンコにしろっ！

おわおわ
げえ

イキしねっ！
喉で絶頂しろっ！





イクぞ!



返事はどうした!!

喉オナホになれっ!!



「排泄」って
感じで
とても良いぞ



ふん

ゴホッ

ゴホッ

イキながら
小便もらしたな♡



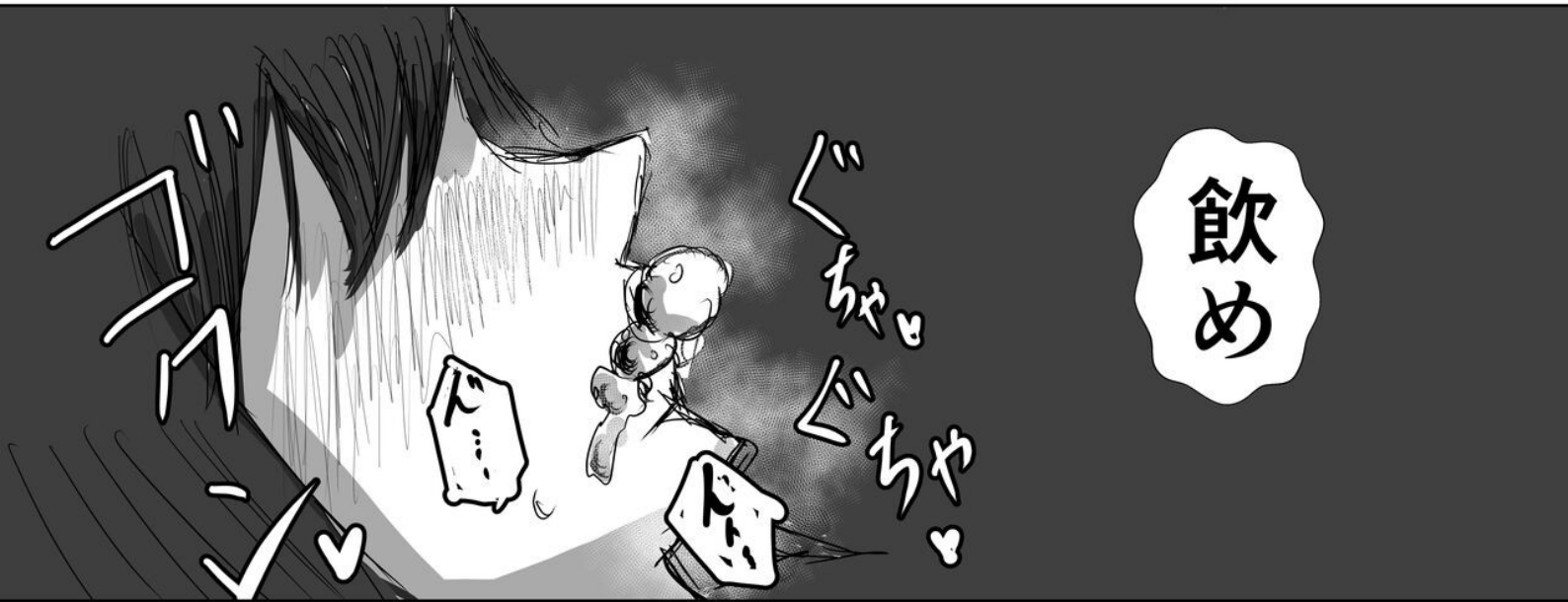
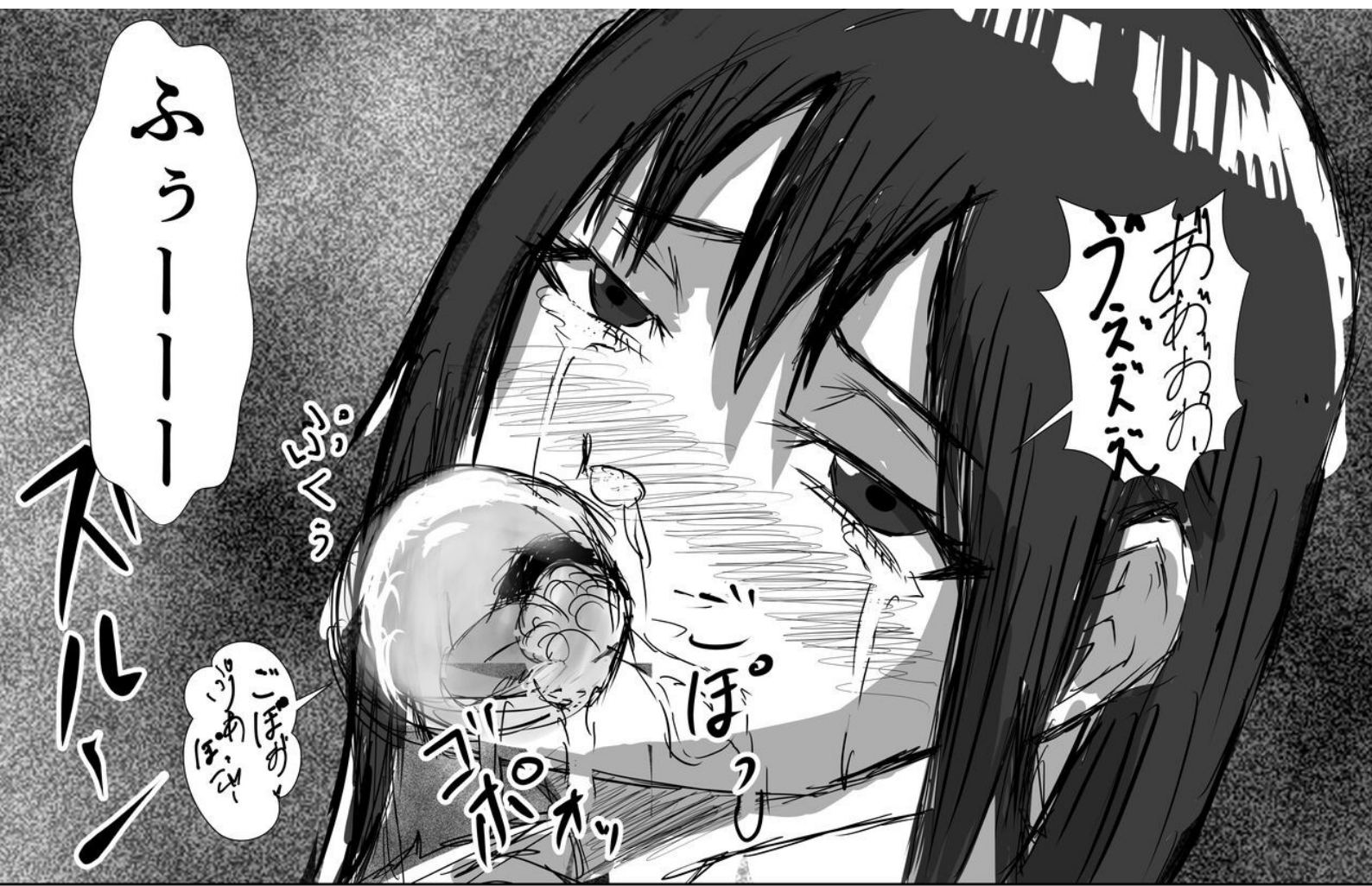
ふう…
すっきりしたわ♡

そう
尿道の残りも全部
吸い上げる♡

ぬるり〜

うぼぼ
おんが





飲め

よし次は
生マンコだ

私なんで？
こんな雑に
排泄処理の道具に
されてるのに
感じてる……

全部脱げ

はい…



今度は私の番よ

くちゅー

うおっ
この眺めえっろ♡



ストン

あーん

あーん



すずすず

くちゅー



なに今の情けない声

う、うるせえ



ユイのスローグラインド
気持ちよすぎる♡

ぐちゃ♡
ぐちゃ♡

イ、イキたい



駄目よ
今からがっ！
本番っよっ！

ぐちゃ♡
ぐちゃ♡

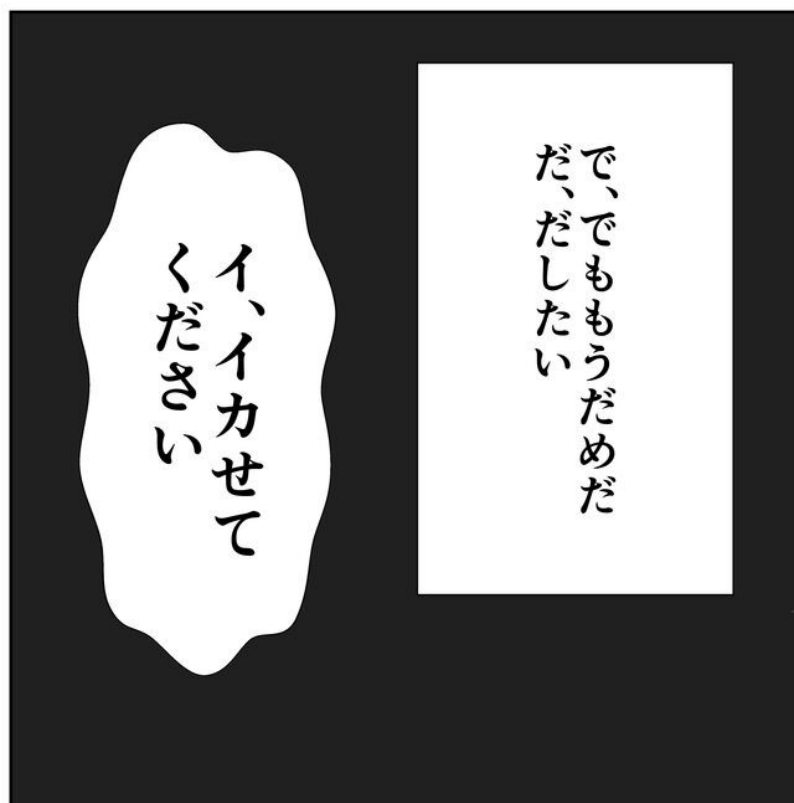
パッパッ
パッパッ
パッパッ



仕返しよ♡

ほらほら
さっきまでの
威勢はどうしたの？

ぐちゃ♡
ぐちゃ♡
ぐちゃ♡
ぐちゃ♡
ぐちゃ♡
ぐちゃ♡



あははは！
バツカみたーい♡

いいわよ♡
イキなさい♡

ゴジュルッ
ゴジュルッ
イ、イクウ♡

あ……♡



ゴジュルッ
ゴジュルッ

ゴジュルッ
ゴジュルッ
ゴジュルッ

ゴジュルッ
ゴジュルッ
ゴジュルッ



うわ
すっごい♡

ブッ
ビッ

ブッ
ビッ

ズル
ッ

あわあわ

あんな喉に
私だけじゃ
出さなくて
なんでもな
出るわけ？

う…
だって
気持ちよくて

あんな私を
妊娠学生に
するつもり？

いや…

何でチンポの
反応してんのよ
キモいわね



ぐちっ♡

ぬる♡

ま、今回は
私の勝ちね

くっそー

けどユイ
のりのりで
エロかったな♡

うっさい！

あとがき 

はじめまして。
たこやきと申します。
お買い上げありがとうございます。
NTRが好きなので漫画を描いてみました。

ちなみにこれは第二話なので興味のある方は
一話も読んでくださると嬉しいです

今回はキリのいいところまで描こうと思ったら長くなってしまいました
とりあえずこれで幼馴染は知らぬ間には完結です。

今後は次のような構想がありますが、終わらないので書きません。
妄想でおぎなってください。

- ユイとタケシはこの後別れる(ユイが振る)
- 傷心中の時に、ケータの友人のトモヤに流されてヤっちゃう
- なんやかんやでケータと付き合う
- 難関大学に入ったユイだが、ケータは浪人
- 浪人中のケータのもとには、ユイから不穏な連絡が・・・
(入ったサークルが隠れヤリサー)
- ケータはユイの寝取られを再び目撃してしまう

こんな感じです。
他の作品として昇華するかもしれません。

おもったよりもボリュームが出てしまいました
皆さんの脳が壊れてくれれば幸いです。



作者: たこやき
pixiv ID: takoyaki_ntr

※本作品はフィクションです。実在する人物、団体とは一切関係ありません
※本作品の無断転載・無断アップロードを禁じます